

ぼく わすれないよ

え ぶん しみずゆうひ しろたもも はなおかみき
ふじもりなみ やなぎさわますみ



きょう
今日はお彼岸です。

てつやくんは、

おとうさんとおかあさんと

おばあちゃんと一緒に、

お墓参りに来ました。

みんなで、

はなとおせんこうを供えて

手を合わせました。

「あそこのあずまやで

ひとやすみしましょうか。」

とおかあさんが言いました。



しばらくすると雨がふってきました
「そういえば…」

てっちゃん のひいおじいちゃんが
大変なめにあつた時も、
数日前雨がたくさん降り続いたわね。」
とおばあちゃんが言いました。

「大変なめにあつたてどういうこと？」
と てつやくん がおばあちゃんに聞きました。

「ひいおじいちゃんが住んでいた

老人ホームの裏の山が崩れたんだよ。」

とおばあちゃんが話しはじめました。





「山やまが崩くずれたって、何なにがおこったの？」

と てつやくん が聞ききました。

「地じすべりといって、山やま肌はだの斜しや面めんが、家いえや大おおきな木きを載のせたままゆっくりと滑すべり落おちる災さい害がいだよ」
とおとうさんがおしえてくれました。

「ふーん、じゃあ僕ぼくが滑すべり台だいを滑すべり降おりるのと似にているね。」

と てつやくん がうなずきました。

「いまからさんじゅうねん三十年くらいまえ前のことだよ。

てっちゃん のひいおじいちゃんは

善光寺ぜんこうじの後ろうしろに見える

地附山ぢづきやまにあった老人ホームろうじん（松寿荘しょうじゅそう）

お世話せわになっていたの。

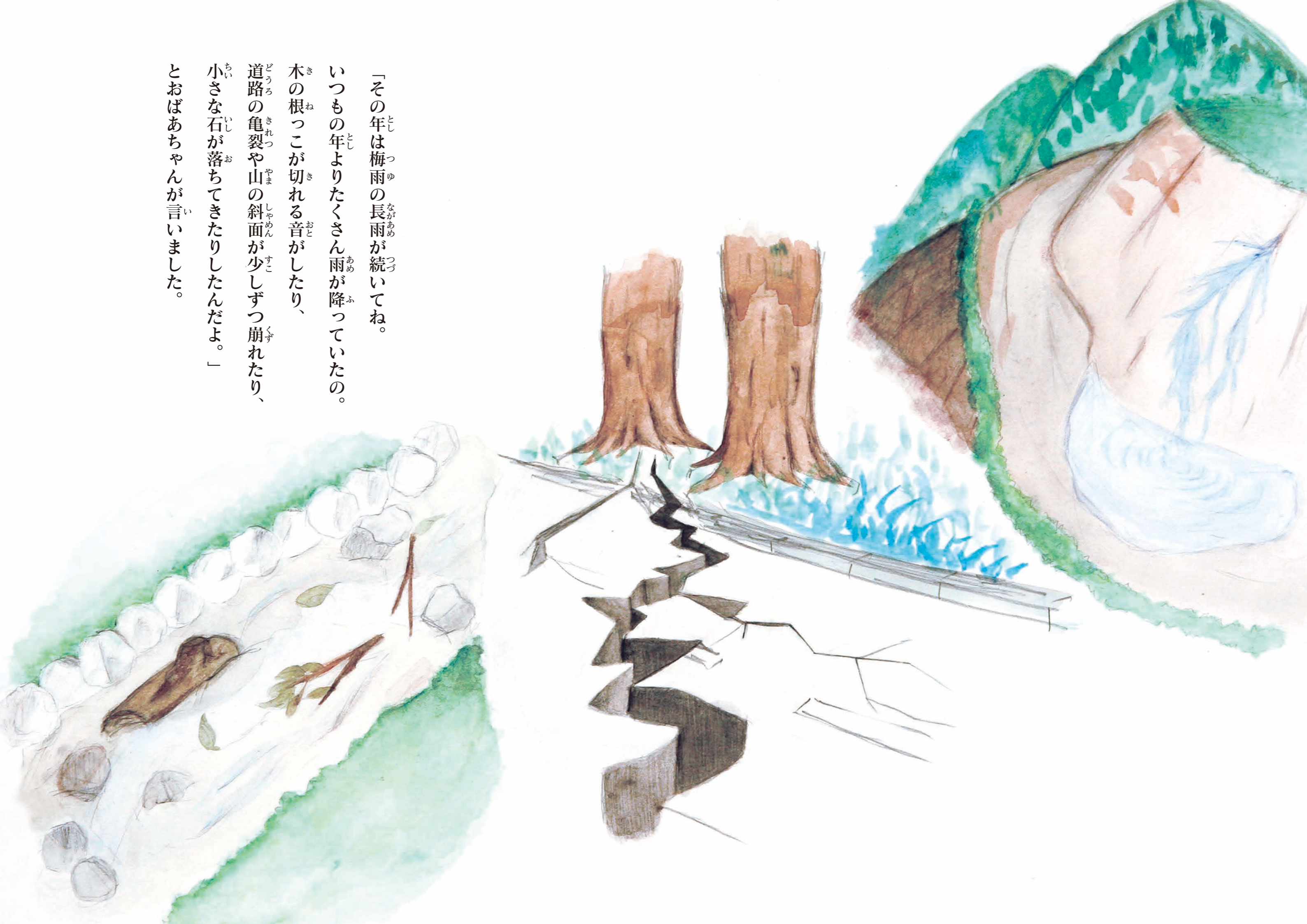
そこにはひいおじいちゃんの他ほかにも、

たくさんひとの人が暮らくしていたの。」

に



「その年は梅雨の長雨が続いてね。
いつもの年よりたくさん雨が降っていたの。
木の根っこが切れる音がしたり、
道路の亀裂や山の斜面が少しずつ崩れたり、
小さな石が落ちてきたりしたんだよ。」
とおばあちゃんが言いました。



「せんきゅうひやくはちじゅうごねんしちがつ にじゅうろくにち ごごじそして一九八五年七月二十六日午後五時ころ、

おお大きな音とともに突然斜面が激しく滑り出して

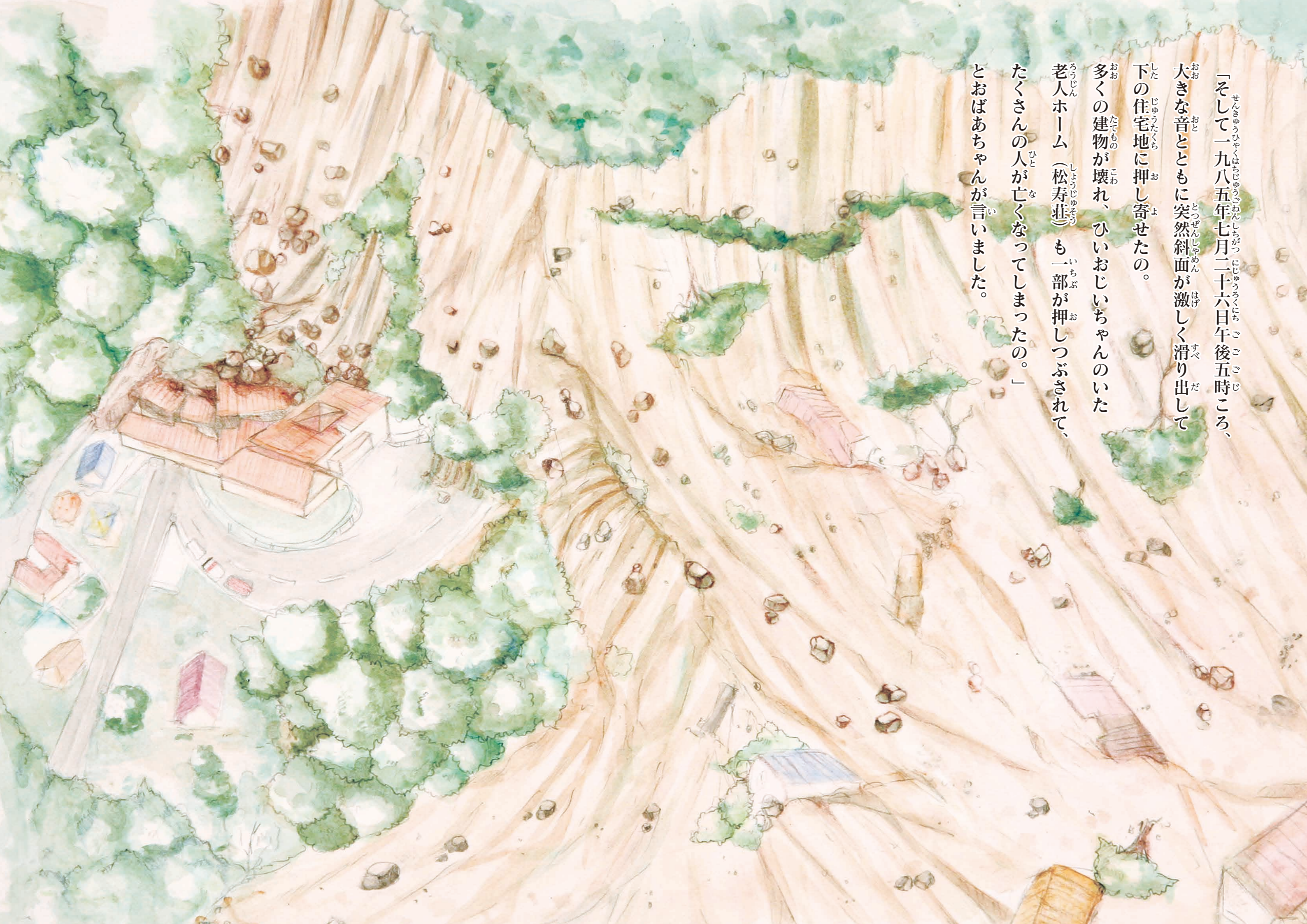
した下の住宅地に押し寄せたの。

おお多くの建物が壊れ、ひいおじいちゃんのいた

ろうじん老人ホーム（松寿荘）も一部が押しつぶされて、

たくさんの人が亡くなってしまったの。」

とおばあちゃんが言いました。



「へえ、こわいね。」

ひいおじいちゃんどうなったの。」

と てつやくん が聞きました。

「幸いひいおじいちゃんは

無事助けられたのよ。」

とおばあちゃんが言いました。

「安全と思われていた場所でも、

大雨が降ったり、

雨の日が長く続いたり、

地震などでも

とても大きな災害が

起きることがあるんだよ。」

とおとうさんが言いました。

「だから むかし

実際にあった災害を

忘れてはいけないのね。」

とおかあさんが言いました。



「じゃあ、てつや、」

今は公園こうえんになっている

地附山ぢつきやまに行いつてみようか。」

とおとうさんが言いいました。

「わーい。いくいく。」

と てつやくん は

笑えが顔おになりました。

雨あめが止やんで

空そらには大おおきな虹にじがかかりました。



地附山地滑り災害

一九八五年七月二六日、長野市の善光寺の背後にある地附山で大規模な地すべりが発生しました。この地すべりにより、老人ホーム松寿荘の建物の一部が押しつぶされたり、家屋が壊され、最終的に死者二六名、負傷者四名、全半壊等した家屋六四棟の被害が出ました。その後、災害防止の工事が行われ、現在は地すべり防災が学習できる「地附山メモリアル公園」として整備され、善光寺平を見下ろす緑豊かな公園として市民に愛されています。

参考文献

- 『災い わざわい 人々のくらしと災害』 長野県立歴史館 二〇〇八
- 『住民の叫びー湯谷団地地滑り被災記録』 湯谷団地地滑り被災者の会編
- 『灼熱の苦闘〈昭和六〇年地附山地滑り捜索活動の記録〉 長野県建設工業新聞社
- 『地附山地すべり災害』 長野県土木部／長野建設事務所
- 『真夏の大崩落 長野市地附山地すべり災害の記録』 長野市
- 『ヤマが襲った長野市地附山地滑り記録』 信濃毎日新聞社

あとがき

幼児教育学科に学ぶ私たちは、子どもたちにも幼い頃から防災意識をもってもらう重要性を認識して、何が出来るのかをみんなで考え相談して、私たちの住む善光寺平で起こった過去の地すべり災害を、風化させることなく後世に伝えることが大事と考え、この絵本を制作しました。なお、絵本に登場する人物は架空の家族です。

この絵本は長野市との幼児防災啓発連携事業として制作したものです。

この本を作った人たち

え・ぶん

長野県短期大学幼児教育学科3年 造形表現II

清水優妃

城田もも

花岡美希

藤森奈美

柳澤真純

監 修

長野県短期大学幼児教育学科造形研究室

小林亮介

長野市危機管理防災課

山口正樹

印刷製本

信光社

長野市鶴賀河原三〇二番地二